

【2025年度 子どもの事故防止研修プログラム—受講学生の感想文（抜粋）—：京都教育大学教育学部 家政科、今回の学びを今後どのように生かしたいかを各自で考察しました。】

■今回の学習を通して、安全とは子どもに「気をつけなさい」と教えることだけではなく、大人が先回りして危険を取り除き、行動を支える環境を整えることでであると学ぶことができました。また、海外と比較した日本の制度の危うさなども今回の講義で初めて知ることができました。

昨日まで普通に生きていた子どもたちの命が、ある日突然なくなってしまうような悲しいことがないように、将来、子どもと関わる立場になったときには、「事故は防げる」という前提に立ち、知識と意識を持って子どもの命を守っていきたいです。また、社会全体の安全に対する意識が高まるように働きかけられるような教員になりたいと思いました。そして自分自身も、もう子どもではないけれど自転車の乗り方などは気をつけて、不慮の事故に合わないようにしたいです。貴重なお話をありがとうございました。

■子どもの発達・発育段階に合わせて、身の回りにはたくさんの危険が潜んでいることが理解できました。悲しい事故により、未来ある子ども達がたくさん亡くなっていることを知り、自分も将来親として子どもを育てる立場になった時に未然に防ぐことが出来るように注意したいと感じたし、今日の学びを何より学校現場でも家庭科の教員としてアウトプットしたいと感じました。

学校という場を活かして、子ども達に自分達が気づくべき危険を教え、その子たちが将来大人になってまた子どもを育てることになった時に思い出してくれるような好循環を生み出し、防げる事故を少しでも減らすことに繋がる学びを提供出来る教員になりたいと思いました。

■今まで知らなかったことも多くあり、正しい知識が身につけていないことは問題であると感じました。子どもが発達することは自然なことであり、子どもは大人が予想しない動きをするため、大人がそれに合わせて安全な環境を整え、子どもを守る必要があります。そのためにも、特に子どもに関わる時には、子どもの成長・発達をより理解し、リスクを常に考えておくようにしたいと思いました。

今回の講義がなければこのような視点は持つことが出来ていなかったと思うので今回学ばせていただけて良かったです。有難うございました。

■講義は乳幼児に限らず、児童生徒にも十分関連の強い内容で、子どもの事故とその防止について知見を深められるものであったため、本学の学生なら全員が一度は受けておくべき講義であると考えました。また、子どもの事故は大人の思いもよらないことが原因で発生するとよく言われますが、大人がその時の自身の尺度で子どもの安全を測ろうとすることによって事実との乖離が起こり、万が一の事故が起こるのではないかと思います。

■「子どもは昨日できなかったことが突然できるようになる。」という言葉が印象に残りました。家庭科では子どもの成長発達について学びますが、子どもの成長発達について理解していれば、その月齢・年齢の子どもにどんな事故が起こりやすいのかを理解しやすくなると思いました。

また、子どもの視野体験を通して、子どもの視野の感覚をつかむことができました。数値で知識として

知るよりも、体験をした方が印象に残りやすいと思いました。施設見学では、一見安全そうな家庭環境の中にも多くの事故リスクが潜むことを学び、実物を見ることで危険のイメージをより具体的に捉えることができました。

子どもの事故防止には、知識だけでなく「子どもの視点を知る」ことが欠かせないと実感しました。今回の学びを今後の家庭科教育や自分の生活にも活かしていきたいと思います。

■チャイルドシートやヘルメットなどの安全装置については、単に使うか使わないかではなく、「どのように」「どの場面で」正しく使用するかが命を守る決定的な要素であることを忘れず、周囲の大人にも積極的に伝えていきたいと思います。また、視野体験で感じた子どもの車の見え方は、私の中で非常に大きな気づきとなりました。大人が思う以上に子どもは周囲が見えておらず、危険を危険として予測できないことを実感しました。だからこそ、保育者として子どもの特性をふまえて子どもの立場で考える姿勢を日頃から大切に、園内の環境構成や声かけの仕方に反映させていきたいと思います。例えば、玄関や廊下など事故が起こりやすい場所では、死角を作らない物の配置や、子どもの行動範囲を予測した安全確保を意識していきたいと考えます。

■もし事故が起きてしまった時には、個人の責任を追及する前に、事故の状況を調査して再発を防ぐための対策を考えることが重要だと感じました。事故は誰にでも起こる可能性があるので、まず子どもの命を守ることを優先する気持ちが何より大切だと思います。

また、応急手当の仕方を知っていれば、子どもの命が助かる可能性が高くなるので、これからは講習会に参加したり、本を読んだりしながら、学びを深めていきたいです。長村先生、京あんしんこども館の皆様、お忙しい中ありがとうございました。

■今回の講義や体験学習を通して、子どもの事故は運が悪かったから起こるものではなく、大人の配慮や環境づくりで大きく防ぐことができるということを改めて実感しました。子どもの死因の多くが事故であるという事実は衝撃的でしたが、同時に「原因があるからこそ予防できる」という視点を持つことがとても重要だと感じました。

特に、子どもの視野体験では、自分が感じている安全と子どもが感じている安全はまったく違うことを理解しました。子どもは大人より視野が狭く、危険に気づくタイミングも遅れるため、大人が思っている以上に事故のリスクが高いということが分かりました。また、施設見学で実際の生活空間が再現されていたことで、「ここに物が置いてあると引っかかりやすい」「この高さなら手が届いてしまう」など、実際の子どもの行動を想像しながら危険を見つける感覚を養うことができました。

これらの学びを今後活かすためには、まず子どもの立場に立って安全を考える習慣を大切にしたいです。大人の視点だけでなく、子どもの行動特性や発達段階を踏まえて環境を整えることが、事故を減らす第一歩だと感じました。

〈長村先生へのメッセージ〉

□今回の講義と施設見学を通して、これまで知らなかった多くの危険や、その対策の具体性を学ぶことができました。ただ知識として得るだけでなく、実際に視野を体験したことで、子どもの立場に立って考

えることの大切さを強く実感しました。自分の中の「安全」への意識が大きく変わる貴重な学びになりました。

□長村先生の講義は、ただ知識を知るだけでなく「実際に見て体験する」学びが多く、自分の生活に結びつけて理解できました。特に、子どもの視野がどれほど狭いのか、家庭内にどれほど多くの危険が潜んでいるのかを実際に体験し、目で見ること、小さな環境の違いが子どもの命を左右するのかを学ぶことができました。おかげで講義を受ける前よりも、子どもの安全に対する意識が大きく変わりました。貴重な学びの機会をいただき、本当に有難うございました。

□長村先生、今回は講義していただき有難うございました。日本で子どもが亡くなっている事例をいくつか取りあげながら講義して下さったので現実を知ることができました。ニュースでは取り上げられないような事例があって知らない間に子どもがたくさん亡くなっている事実はとても悲しかったです。もっと、危機感を持って法律や制度を変えていくべきだと強く思いました。ヘルメットをつけることへの抵抗感や、チャイルドシートの使用義務など、周りに合わせてしまう日本人の考え方を変えるためにも必要な法律だと思います。先生の考え方が世の中に広まるように、今できることを考えて動いていかないと、私たちが大人になった時にどうなっているのか不安になりました。教員を目指す人が多い私たちの大学の中からも子どもと関わるという責任感を強く持って動くようにしたいと思いました。貴重なお話を有難うございました。

□今回の講義を聞いて、私たちがほんの少し気をつけるだけで防げるはずの子どもの事故が現実にはほとんど減っていないという事実に深く考えさせられました。長村先生のお話は非常に具体的で、実際に起きた事例や海外と日本の比較を通して、日本が法制度や事故防止の取り組みにおいて遅れをとっていること、そして社会全体として子どもの事故への関心が十分ではないことなど、さまざまな課題を理解することができました。特に、窒息事故や交通事故の背景にある保護者の思いや社会の価値観の問題を、単なる数字としてではなく、実際に起きていることとして、自分ごととして考えることができました。教師になる立場として、子どもたちと関わる時の今後の行動にも責任をもって向き合いたいと思いました。

また、先生がおっしゃっていた、代弁者の必要性のお話が特に印象に残りました。子どもの不慮の事故を経験した保護者や周囲の人々が声を上げられない現実がある一方で、その声が社会に届かなければ同じ事故が繰り返されてしまうという矛盾に、これまで向き合ったり考えたりしたことがありませんでした。これからは今回の学びを周囲に伝えるとともに、子どもを守るための意識を広げていく代弁者として行動していきたいと感じました。今回の講義でお聞きした貴重なお話を今後の自分の行動につなげ、子どもの命を守る社会の一員として責任を果たせるように努力していきたいと思います。貴重なお話を聞かせていただき、有難うございました。